

満開の桜が春の柔らかな光につつまれる今日の佳き日、ここに大阪府立四條畷高等学校第80回入学式を挙行いたしましたところ、本校PTA会長 伊藤 陽子様、PTA役員のご来賓の皆さま、並びに多くの保護者の皆様のご列席を賜り、高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

ただいま入学の告示を行いました360名の新入生の皆さん、皆さんの入学を心から祝福し、歓迎いたします。「ようこそ、四條畷高校へ」

本校は、1903年に、旧制四條畷中学校として、この地に生まれ、今年で創立122年を迎える歴史と伝統のある高等学校です。創立以来の教育方針として「質実典雅」「文武両道」を旨とし、「自主・自立・自由」の精神を育んできました。卒業生は、優に3万人を超え、あらゆる分野で、そして国内外の至る所で活躍し、社会に貢献していっています。

四條畷高校は、この伝統を誇りとしながら、国や府の研究指定を受け、その時々々の教育課題に対応する指導法の開発等に取り組んでまいりました。

本校の伝統を継承しさらに創造する立場である皆さんには、この四條畷高校で「本物の学力」「真の学力」を培ってほしいと思います。

ところで、皆さんは「タイパ」という言葉を聞いたことがあるかと思います。タイパはタイムパフォーマンスという和製英語の略称で、費やした時間に対する満足度の度合いを示し、「時間対効果」という意味です。短時間で高い満足度が得られた場合は「タイパが良い」といい、たとえば動画を倍速で見るとか、要点をまとめた切り抜き動画を見るような場合に使われます。

このような言葉が生まれたのはインターネット、データベースといったデジタル技術が急速に発展し、世界中からありとあらゆる情報が発信、蓄積されるようになったことが背景にあります。一方で一日二四時間であることに変わりはなく、ひとり一人が情報の収集にかけられる時間には限りがあり、より短時間で有益な情報を得ることが重視されるようになりました。以前なら図書館に行って、本や雑誌から得ていた知識や情報が、検索エンジンにキーワードを入力するだけでだれでも簡単に手に入ります。

確かに時間を効率的に使うことは大切ですが、私はこの「タイパ」という考え方には落とし穴があると思います。「タイパ」は受け身で享受する、あるいは消費するようなものの場合、または単なる知識を得るだけの場面では効果を発揮するでしょう。しかし、何かを生み出し、創り上げていく建設的で生産的な場合には向いているとは言えません。

皆さんが高校3年間で培うべきは、「真の学力」であり、将来どのような場面であっても自ら工夫し生き抜いていける力こそ養うべきです。簡単に手に入る知識や情報ではありません。では「真の学力」を高めるために必要なことはどのようなことでしょうか。私は次の三点だと考えています。

まず1つ目は、時間がかかっても常に自分の頭で物事を考え、課題を見つけてどうすれば解決できるのか工夫してみることです。簡単に正解を求めるのではなく、試行錯誤して自分で考える、創意工夫する習慣をつけることです。

2つ目は、前例や常識、既成概念にとらわれることなく、柔軟な思考力を発揮して、新しいことに挑戦してみることです。普通はこうだから、多くの人はこのように判断するから、という発

想ではなく、新しいこと、誰もまだ踏み込んでいないことに挑戦してほしいと思います。

3つ目は、異なる文化や価値観を理解し、自分にとってなじみのない考え方や行動に触れながら、多様性を認め合うことです。同じような環境で過ごしてきた人とばかり接する、あるいは自分にとってなじみのある情報だけを受け入れるのではなく、異なる文化や環境と関わり交流することで、多様性を認められる人になってほしいのです。

これらのことは決して受け身の姿勢ではできませんし、時間もかかることでしょう。ただ、四條畷高校には、今あげた3つのことを実践する機会が多くあります。

グローバルリーダーズハイスクールならではの文理学科での授業や探究活動、文部科学省指定のスーパー・サイエンス・ハイスクールでの研究活動はもちろんのこと、海外の学校や研究機関との国際交流、また授業以外においても畷高祭・体育祭をはじめとする学校行事、さらに部活動など様々な場面で、自ら考え、多様性を認め、仲間とともに協力し、成し遂げる経験を積むことができます。

どうか高校時代に、これまでとは異なる視点を持つ人との繋がりを作り、広い視野を持つようにしてください。そして、時間がかかっても、たとえ「タイパ」が悪くても、受け身でなく能動的に創造的に建設的に生きていけるよう、「真の学力」を身に付けてください。

そして将来のグローバルリーダーとなるために、皆さんの優れた能力や才能や知力を、どうか自分のためだけでなく、社会のために活かせるように、人としての基礎力を、ここ畷高で養ってほしいと思います。

保護者の皆様、お子様の本校への入学に際して、さぞやお喜びのことと拝察いたします。

私たち、すべての教職員は、生徒のみなさんの可能性を、最大限に伸ばすことができるよう教育の質を高め、一人ひとりに寄り添った指導に努めてまいります。

何より生徒の皆さんの学校生活を充実させるためには、保護者の皆様のご支援が是非とも必要です。今後、様々なご協力をお願いする機会があると思いますが、どうぞ理解いただきますようお願いいたします。最後になりましたが、保護者の皆様はじめ関係の皆様に、引き続き、本校の教育活動にご理解・ご協力並びにご支援を賜りますよう、お願い申し上げて、私の式辞といたします。

令和七年四月八日

大阪府立四條畷高等学校校長

平岡 香子